

I 第34週の発生動向 (2013/8/19~2013/8/25)

- 手足口病については、むつ保健所管内に新たに**警報**が発令されました。上十三保健所管内では第28週から、八戸保健所管内では第30週から、東地方+青森市保健所管内では第32週から**警報**が継続しています。
- ヘルパンギーナについては、むつ保健所管内に新たに**警報**が発令されました。弘前保健所管内で第32週から**警報**が継続し、東地方+青森市保健所管内でも警報レベルに近い状況が続いています。

II 第34週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週対比)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科+内科 (85) インフルエンザ															0				
小児科 (74) RSウイルス感染症					3	0.3	1	0.2					4	0.1	-11				
(75) 咽頭結膜熱					2	0.2			2	0.3			4	0.1	1				
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	0.3	5	0.6	9	1.0	1	0.2	1	0.2			18	0.4	1			2	0.3
(77) 感染性胃腸炎	10	1.3	9	1.0	7	0.8	5	1.0			8	2.0	39	1.0	15			10	1.3
(78) 水痘			4	0.4	4	0.4	1	0.2	1	0.2	5	1.3	15	0.4	-18				
(79) 手足口病	72	9.0	29	3.2	47	5.2	2	0.4	66	11.0	21	5.3	237	5.8	23			72	9.0
(80) 伝染性紅斑															-5				
(81) 突発性発しん	8	1.0	2	0.2	4	0.4			5	0.8	3	0.8	22	0.5	0			8	1.0
(82) 百日咳															0				
(83) ヘルパンギーナ	46	5.8	81	9.0	5	0.6	4	0.8	17	2.8	31	7.8	184	4.5	34			46	5.8
(84) 流行性耳下腺炎	2	0.3	8	0.9	1	0.1	1	0.2			4	1.0	16	0.4	-6			2	0.3
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															-1				
(87) 流行性角結膜炎	3	1.5	1	0.3	1	0.5							5	0.5	3			3	1.5
基幹 (92) クラミジア肺炎															0				
(93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	1	1.0	1	1.0			1	1.0	4	0.7	-6				
(96) 無菌性髄膜炎															0				

は警報 は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- (10) 結核(二類全数把握疾患)：五所川原2人(2013年計:202人)
- (16) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：八戸2人(2013年計:37人)
- (59) レジオネラ症(四類全数把握疾患)：弘前1人(2013年計:3人)

IV 病原体検出情報 ()内は、検査材料及び検体採取日、患者数です。

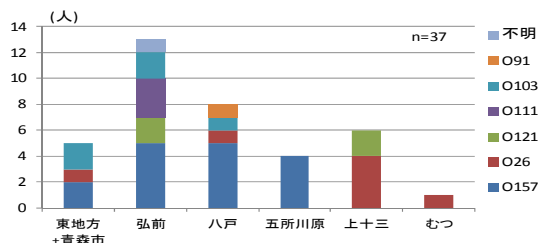
- ・上気道炎患者3名(咽頭ぬぐい液、7/2~7/29)・・・**ライノウイルス(HRV)**：弘前(1)、八戸(1)、**パラインフルエンザウイルス1型**：弘前(1)
- ・下気道炎患者4名(咽頭ぬぐい液、鼻汁、7/16~7/29)・・・**HRV**：弘前(2)、**ヒトメタニューモウイルス**：弘前(1)、**ヒトボカウイルス及びHRV**：弘前(1)
- ・手足口病患者1名(咽頭ぬぐい液、7/28)・・・**エンテロウイルス71型**：弘前(1)

感染症の窓

腸管出血性大腸菌感染症 (三類全数把握疾患)

表 県内の年間患者報告数 (人)

年	報告数	年	報告数
2003	12	2008	21
2004	28	2009	35
2005	18	2010	16
2006	53	2011	24
2007	38	2012	68



県内の過去10年間の腸管出血性大腸菌感染症報告数は、年間あたり12~68人ですが、2012年は集団発生があり最多でした(表)。2013年は第34週までに37人報告されており、保健所管内別では弘前が最多です。またO血清型別では、多い順から、O157、O26、O103、O121、O111、O91、型不明が1人となっています(図)。

本感染症は、夏季を中心に年間を通じて発生するため、今後の発生動向にも注意が必要です。本病原菌は、熱に弱く、75℃、1分間以上の加熱で死滅しますが、低温条件には強く、家庭用冷凍庫では生き残ると考えられます。

感染は、主に汚染された食品によることから、予防のためには調理時の十分な加熱、手や調理器具の流水による十分な洗浄、特に生肉の触れたまな板、包丁、食器等は、熱湯等で消毒するなど注意が必要です。

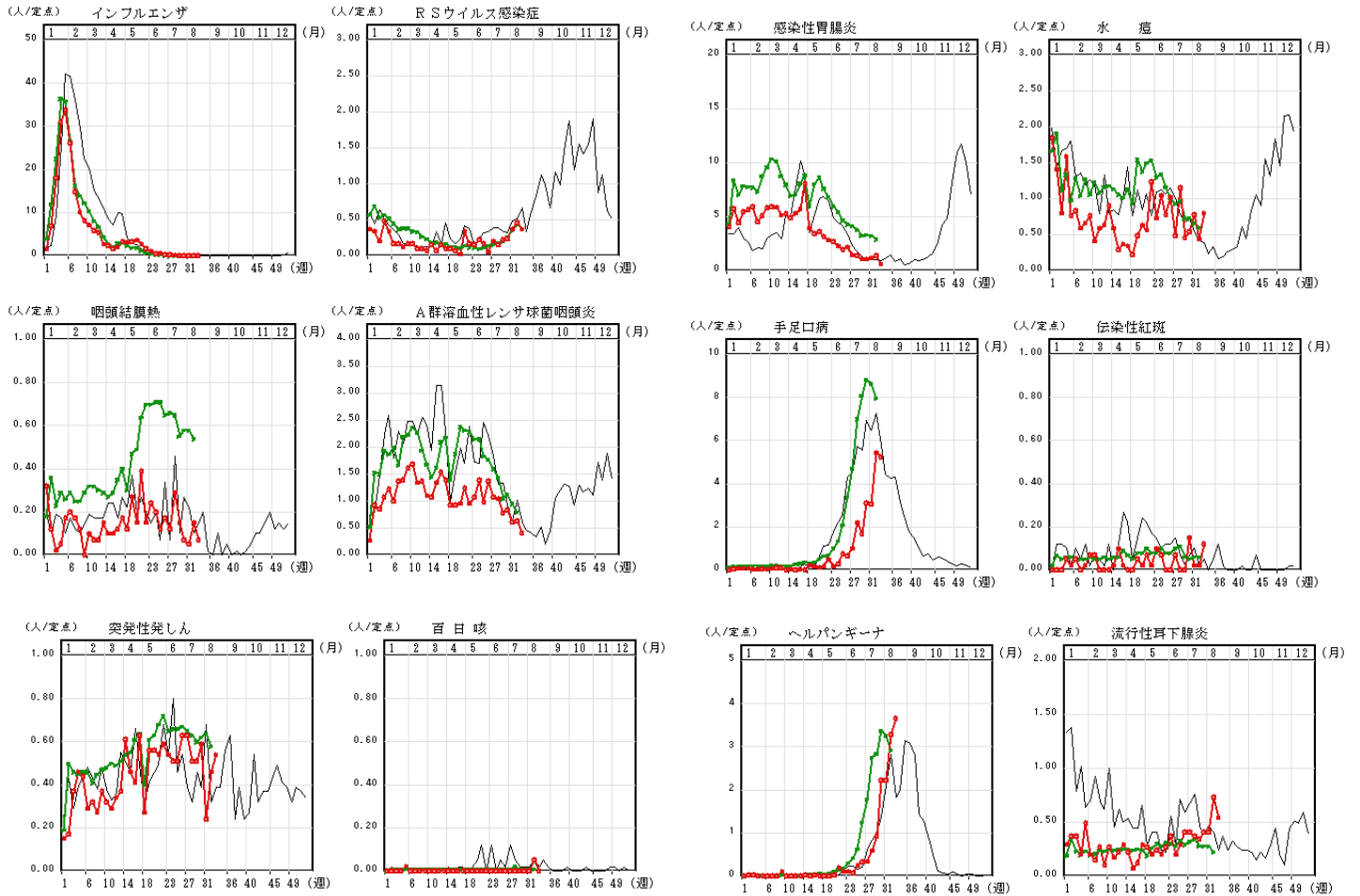
県のホームページでは、詳しい情報を掲載しています。
(<http://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/EHEC.html>)

図 保健所管内別、型別患者報告数 (2013年第1~34週)

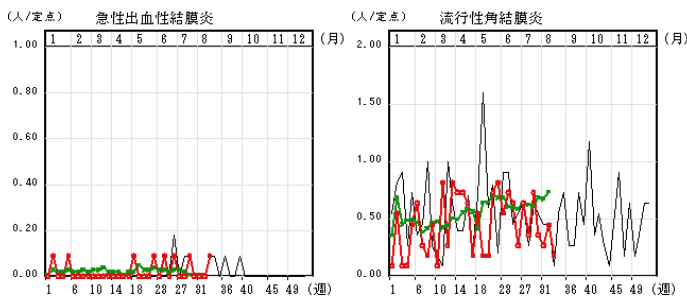
Ⅷ インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移

2013年第33週

グラフの説明 ○—○は2013年青森県、—は2012年青森県、×—×は2013年全国



Ⅸ 眼科定点把握疾患週別推移 2013年第33週



X 基幹定点把握疾患週別推移 2013年第33週

